教育委員会会議の概要（令和６年７月臨時会）

◆　日　　時　令和６年７月１０日（水）午後２時００分から午後４時２７分まで

◆　場　　所　教育局　第１会議室

◆　出　席　者

教　育　長	天 野　　元	出席
委員・教育長職務代理者	花 渕　　浩 司	出席
委　　員	川 又　　政 征	出席
委　　員	後藤　由起子	出席
委　　員	山 田　　理 恵	出席
委　　員	庄 司　　弘 美	出席
委　　員	長谷川　真里	出席

◆　会議の概要

１　開　　会

２　議事録署名委員の指名　　後　藤　　委　員

３　協　議　事　項

（１）令和７年度使用の仙台市立義務教育諸学校教科用図書の採択について

（教育指導課長、教育センター担当指導主事　説明）

【社会（地理的分野）】

教　育　長　「社会（地理的分野）」について協議を行う。事務局から、学習指導要領の目標等について説明をお願いする。

教育指導課長　担当指導主事から説明する。

指　導　主　事　中学校「社会（地理的分野）」について説明する。

中学校「社会（地理的分野）」では、社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指している。

（１）我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事情や地域的特色を理解するとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

（２）地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然、環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

（３）日本や世界の地域に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそ

こで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚を深める。

以上のことを目標としている。

協議会において取りまとめた、中学校「社会（地理的分野）」の全発行者の特長は、別添２の15ページに示している。

主な特長について、まずＡ者は、「アクティブ地理ＡＬ」において、地域の課題について、学んだ知識・技能を活用しながら、対話を通して学びを深められるように工夫されているということである。

次に、Ｂ者は、ＳＤＧｓを踏まえた地域の課題や資料が示されており、現代的な諸課題等について、自分事として学びを深められるように工夫されているということである。

次に、Ｃ者は、章を見通す「導入」から「本文」、「学習のまとめと表現」、「特設・クロスロード」と続く学びの中で、主体的に学べるように展開されているということである。

次に、Ｄ者は、まとめで振り返る内容に３つの観点が示されており、どのようなことができれば良いか生徒自身が分かるように工夫されているということである。

教　育　長　ただいまの事務局の説明について、何かご質問はあるか。

（質疑なし）

教　育　長　各発行者の教科書見本本にご意見をいただきたい。

長谷川　委　員　Ａ者については、グラフの作り方なども含め、地理的な内容の活用方法が適宜挿入されていて、地理的な見方・考え方を学べる工夫がたくさんある。また、「問い」「学習を振り返ろう」により、ねらいが明確になり、学習を進めることができるようになっている。

Ｂ者については、クイズやゲーム形式が挿入されていて、話合い活動ができるような工夫がある。

Ｃ者については、「確認」「表現」のコーナーにより主体的な学びにつながるような工夫がある。また、「地理の窓」も非常に魅力的な内容で、発展的な学びにつながると思う。

Ｄ者については、課題をつかむ、追究する、解決するという流れで構成されている。また、細かいコラムがたくさん挿入されており、地理の枠組みを越えて文化や社会の理解につながる発展的な学びができるような工夫がある。

花　渕　委　員　Ａ者は、単元を貫く「章・節の問い」、各見開きの「学習課題」「確認しよう」、単元最後に「説明しよう」があり、それらが構造化されていて、見通しを持ち学習が進められるように配慮されていると思った。

Ｂ者は、「スキルＵＰ」や「資料活用」「自分の考えをまとめよう」のコーナーで、主題図やグラフから地理的な事象を読み取る力が身に付くように工夫されていると思った。

Ｃ者は、「確認」や「地理の技」のコーナーで知識・技能が習得できるように工夫されている。章末の「表現」で、学習内容に基づく思考力・判断力・表現力などを育成する課題が設定されていると思った。

Ｄ者では、「チェック＆トライ」に取り組むことで、その時間に学んだことを振り返るとともに、思考力・判断力が高められるのではないかと思った。

川　又　委　員　Ａ者は、巻頭で地理的分野の学び方、この教科書の利用の仕方、地図帳との関係を全体的、総合的に示しており、生徒にとってとても役立つものだと思う。また、「技能をみがく」では、例えば日本列島の簡単な描き方、地図の読み方、写真からどのように情報を読み取るのかというような技法を教授している。巻頭では、考え方を整理するための思考ツールが示されており、例えばマトリックス、ベン図、ウェビング、ステップチャートというような様々な手法を提示し、この地理的分野の学習にどのように応用するのかということがまとめられている。

Ｂ者は、各節の終わりの「持続可能な地域をめざして」で、地域ごとのＳＤＧｓと

の関係、ＳＤＧｓの観点からの課題がまとめてある。また、マイクの印があるインタビュー記事があり、インタビューの内容によって地域の特徴について実感を持って理解できるように示されている。

Ｃ者は、大きな折り込みのページにより、日本列島全体の特徴が俯瞰できるようになっている。また、この教科書では地理に関して、地学的なところだけではなく、民族、言語、宗教についても詳しく言及している。加えて、ＳＤＧｓに関連して、アイヌ民族文化に関しての紹介のページが多数入っている。

Ｄ者は、表紙を開くと、見開きカラーの写真で「世界の食事を見てみよう！」とあり、地理に関連する民族や地域の違いが直感的に分かるようになっている。また、地域ごとに「聞かせて！中学生」というインタビューのコラムがあり、そこで地域の話題や考え方、特徴を中学生自身に語らせる身近な題材が提示されている。また、一般的な写真や文字、図版等の表示の仕方として、行間を大きく空け、詰め込み過ぎない文字の配列にすることで、読んでいて目が疲れない体裁になっていると考える。

後　藤　委　員　Ａ者は、「学習課題」で問題を提起し、「確認しよう」「説明しよう」で知識の定着を図っている。その際、様々な図やグラフから情報を読み取らせることと、自分の言葉で説明させることをセットにした設問があり、言語活動を充実させる、また、思考力・判断力などの育成に工夫が見られると思った。主体的な学習態度の育成に配慮された設問で、学習効果が上がると思う。

Ｂ者は、カラーやフォントがユニバーサルデザインに配慮されていて見やすいという印象を受けた。まとめ学習、ふり返り学習で言語活動が充実できるような配慮がされてもいる。地域の問題を様々な角度から考察し、シンキングツールを活用して解決するという学びの手法は、ほかの教科でも効果的だと思った。

Ｃ者は、「学習課題」で問いを持たせて、「確認」で知識の定着を図っている。基礎的・基本的な知識の習得に効果があると思った。吹き出しのせりふ形式で問い掛けることにより、生徒にとってより身近な視点で課題意識を持たせるような工夫があり、主体的な学びにつながると思う。

Ｄ者は、「学習課題」を提示して授業の目当てを持たせ、「チェック」では本文から要点を探すという方法で問いに答えるように仕向けている。この方法を用いることで教科書をしっかりと読むように促しており、基礎的・基本的な学習の定着への配慮があると思った。

山　田　委　員　Ａ者は、東日本大震災、今後の防災・減災、ハザードマップなどについて記載がある。「アクティブ地理ＡＬ」には、自然災害から命を守ることや、持続可能な観光やオーバーツーリズム、再生可能エネルギーなど最近の話題についても取り上げて説明されているのがよいと思う。海外のデータでは、言語や宗教の分布、工業、農業の出荷額のグラフなど詳しく記載がされている。

Ｂ者も、「東日本大震災にともなう社会の変化」に仙台市が取り上げられており、農業や漁業、工業への影響や、その後の復興や災害に強いまちづくりなどについても詳細に記載されている。

Ｃ者は、日本の産業の説明アニメやコンテンツなど最近の話題に触れており、その他の説明も正確で、現状の問題を把握しやすいように工夫されていると思う。様々なコラムを掲載する「地理の窓」に仙台市が取り上げられている。また、「持続可能な社会に向けて」に震災後の復興の取組について記載されている。加えて、中に見開きで「地図を活用しよう」があり、ジオパークとは何か、世界遺産はどこにあるかなどの問いが地図とともに示されているのが分かりやすいと思った。

Ｄ者は、「スキル・アップ」に、グラフの読み取り方やプレゼンテーションの方法、動画の配信など様々な技法について31項目にわたって紹介がある。「もっと知りたい」や「未来にアクセス」で、より深い学びとなるようなコラムが、こちらも55項目ほど各章で紹介されているのがよいと思った。

庄　司　委　員　Ａ者は、「学習課題」「確認しよう」「説明しよう」で学習ポイントが示され、大変取り組みやすいと感じた。章ごとに「学習を振り返ろう」があり、自分の考えをまとめたり、ほかの人の意見を聞いたり、充実した言語活動が図れるような工夫があると

感じた。
Ｂ者は、「まとめとふり返り」がゲーム形式となっており、自分の考えだけではなく、話合い活動に一歩進んだ工夫があると感じた。また、「議論してみよう」では、地理的な問題、課題が設定されていて、言語活動の充実につながると感じた。
Ｃ者は、学習した内容にＳＤＧｓマークが掲載されていて、地理から総合的な学習などへの関連が図られていると感じた。地図やグラフの扱い方を学習するコーナー「地理の技」は、資料を活用する基礎的・基本的な技能が身に付けられるところも大変良いと思った。
Ｄ者は、地理の学習視点を「地理を学ぶ５つのミカタ」で示していて、地理的な見方・考え方が意識できるような工夫が感じられた。「資料から発見！」の「資料を活用する力をきたえよう」では、資料を基に考察する力が習得できるような工夫があると感じた。

教　　育　　長　それでは、４者あるので３者に絞り込みたいと考える。皆さんから３者を挙げていただきたい。
長谷川　委　員　Ａ者、Ｃ者、Ｄ者。
花　渕　委　員　Ａ者、Ｃ者、Ｄ者。
川　又　委　員　Ａ者、Ｃ者、Ｄ者。
後　藤　委　員　Ａ者、Ｃ者、Ｄ者。
山　田　委　員　Ａ者、Ｃ者、Ｄ者。
庄　司　委　員　Ａ者、Ｃ者、Ｄ者。
教　　育　　長　Ａ者、Ｃ者、Ｄ者ということで、上位３者についてこれから議論していきたいがよろしいか。
（異議なし）
教　　育　　長　それでは、次の段階に進みたいと思うが、ここからはＡ者、Ｃ者、Ｄ者について、改めてご意見を頂戴して議論をしていきたいと思う。最終的に、委員の皆様の合意の下、採択候補を１者に絞り込みたいと思う。
まず、この３者について、ご質問、ご意見をいただきたいと思うがいかがか。
（質疑なし）
教　　育　　長　それでは、ここまでの議論を踏まえて、どの発行者の教科書がよいかご意見をいただき、絞り込んでいただきたいと思う。まず、ご意見をお伺いする。理由も含めてお話しいただきたい。
長谷川　委　員　私は、Ａ者を推薦する。理由は、社会科は決して単なる暗記科目ではないということを考えると、地理的な見方・考え方ができるか、しかもそういう知識も含めて活用できるか、個人に閉じられたものではなく、子供同士、学級の中で話合い活動や対話ができるかという観点で見たところ、例えばグラフの作り方というような細かい技法も紹介されており、学び方も丁寧に紹介されている。また、「アクティブ地理ＡＬ」というコーナーで対話を通して学習ができるような工夫があることから、Ａ者を推薦する。
花　渕　委　員　Ａ者を推薦する。社会科において、問題解決的な学習が特に今必要とされており、その単元や１時間ごとの課題、問題に対して自分なりの予想を立てて、仮説を証明しながら確認し、そして最後にそれを説明するという学習の流れが確立、構造化されているというところから、Ａ者がいいと感じた。
川　又　委　員　Ａ者を推薦する。私が感じる特長としては、この地理的分野の学び方が非常によくまとめられているということ、地理的な思考がまとめられているということ、加えて、考えるための思考ツールを活用して自分の頭の中を整理する、それを他の人に示すというような説明の仕方が充実していると思った。Ａ者については、行間や図版の配置、余白等で非常に見やすくなっているので、この教科書を使用しても、あまり目が疲れない、頭が疲れない勉強ができるのではないかと思った。
後　藤　委　員　Ａ者を推薦する。理由としては、様々な図やグラフから情報を読み取らせること、自分の言葉でそれを説明させることについて工夫が見られ、これは地理的な学習で身に付けてほしい能力だと思い、Ａ者を推薦したい。

山　田　委　員　２者で迷ったが、私もＡ者を推薦する。理由は先ほど申し上げたとおり、東日本大震災や防災・減災などについて記載があるということと、各単元ごとに関連する様々な写真を多く掲載し、各国・各地域の特色をイメージでつかみやすくなっているのがよいと思う。

庄　司　委　員　私もＡ者を推薦したいと思う。各章で学習のポイントが明確だというところ、取り組みやすい工夫があるということ、主体的・対話的な学びが深められる工夫があるところである。

教　　育　　長　皆さんからご意見をいただいたが、様々なご意見の中には、問題解決の道筋や学び方についてあらかじめ巻頭において示されているなどの評価ポイントがあげられ、皆さんＡ者を推薦するとのことであった。総合的な観点からＡ者が採択の候補と思われるがいかがか。

（異議なし）

教　　育　　長　それでは、「社会（地理的分野）」については、Ａ者のご議論いただいた内容を採択理由とし、事務局で整理の上、７月26日に最終の決定をしたいと思う。

【地図】

教　　育　　長　「地図」について協議を行う。事務局から、学習指導要領の目標等について説明をお願いする。

教育指導課長　担当指導主事から説明する。

指　導　主　事　中学校「地図」について説明する。

学習指導要領において、「地図」の扱いに関して示されている配慮する事項として、地図の活用については、内容の取扱いにおいて、地図の読図や作図、景観写真の読み取り、地域に関する情報の収集や処理などの地理的技能を身に付けるに当たっては、系統性に留意して計画的に指導すること。その際、教科用図書「地図」を十分に活用することと示されている。

協議会において取りまとめた、中学校「地図」の全発行者の特長は、別添２の17ページにお示ししてある。

主な特長について、Ａ者は、地図帳の使い方が詳しく掲載されているとともに、一般地図、鳥瞰図、主題図の順で地図が掲載されており、地図の基本的な学習内容が定着するよう配列を工夫しているということである。

次に、Ｂ者は、地図から読み取る事項について、質問があらかじめ記載されており、主体的な学びにつながるよう工夫されているということである。

教　　育　　長　ただいまの事務局の説明について、何かご質問はあるか。

（質疑なし）

教　　育　　長　よろしければ、ご議論に移りたいと思うが、各発行者の教科書見本本にご意見をいただきたい。

花　渕　委　員　Ａ者は、小学校で地図帳を使用して学習した際の約束事を振り返る工夫がされていると思った。それから、地図の基本的な見方、使い方など、地図活用の基礎となる内容が丁寧に説明されていていいと思った。

Ｂ者は、地理的分野だけではなく、歴史的分野、公民的分野の３分野の学習に活用できるように、地図や主題図、統計資料などを組み合わせて掲載している点がいいと思った。

川　又　委　員　Ａ者では、初めの数ページにおいて、地図の使い方、記号の使い方が非常に丁寧に説明されていると思った。また、防災教育、ＳＤＧｓとの関わりについても充実した説明がなされている。それから、いろいろな地図の表示の仕方、図版の使い方などの表現方法が非常に見やすく統一されており、紙面全体が明るい色調になっているので、とても見やすい資料になっていると思った。

Ｂ者については、地図と歴史的分野、公民的分野の関連が示されており、また、地図と日常生活との関わりも非常によく記述されてある。各ページにどのようなことが学べるのか、どのような点に着目するのかといった短いコラムがあり、学ぶ生徒に様々な質問事項、考え方を投げ掛けているという点が非常によいと思う。また、ＳＤ

Ｇｓと環境、地理、それから歴史との関連性も非常によく強調されている。

後　藤　委　員　Ａ者は、導入部で丁寧に地図の説明があり、入りやすいと思った。また、世界の生活文化についての説明も、子供たちの興味・関心を引くような内容だと思った。豊富な資料は見やすく配置されており、グラフなども情報が集中し過ぎず読み取りやすいと感じた。様々なテーマについてじっくり取り上げており、主体的・対話的な学びを深められるような配慮が見られる。

Ｂ者は、世界・日本の地図に円グラフや棒グラフなどを組み合わせ、複数の資料から内容を読み取らせることにより学びを深めることができると思った。また、江戸・東京の俯瞰図など興味深い資料もあり、生徒の関心を高めるような工夫もあると思った。

山　田　委　員　Ａ者は、地図の色が非常にカラフルで明るく見やすい。また、各地図の見方、色分けの説明が各ページにあり、非常に分かりやすい。日本の自然災害や防災について、台風の仕組みやハザードマップについても記載がある。「地図で発見！」という問いがあり、地図から特徴を捉えて比較し、自分の言葉でまとめるようになっているのがよいと思う。

Ｂ者は、例えば江戸と現在の東京の比較図、歴史や文化、祭り、農業、工業など他分野との関連の資料が多く掲載されている。また、それぞれの地図の上にキャラクターが問いを投げ掛けており、より深く考えさせる内容になっているのがよいと思う。

庄　司　委　員　Ａ者は、色合いが優しく大変見やすく、地図から情報が読み取りやすいと感じた。「地図で発見！」では、地図から読み取った内容を自主的にまとめ、対話につながるような工夫も感じられた。

Ｂ者だが、少し濃い目の色で、高低差などが大変分かりやすいと感じた。「Ｂｅｅ’ｓ　ｅｙｅ」はこの地図帳で一緒に世界旅行をするミツバチーズが、地図を深く読み取るためのヒントとなる問いを出していて、その問いに取り組むことで主体的な学びにつながる工夫があると思った。また、「ジャンプ」では、関連するページに進むことで学習の効果が高まるような、そういった工夫も感じられた。

長谷川　委　員　Ａ者については、地図帳の使い方がとても詳しく書かれていることが特長だと思う。また、たくさんの情報が含まれているにもかかわらず、恐らく文字の大きさやレイアウトに工夫があるのだと思うが、とても見やすいものになっている。

Ｂ者については、地域ごとに地図が初めに示され、その後にその地域に関わる資料を示す順番になっていて、学びやすいと思う。また、落ち着いた色合いがＢ者の特長だとも思う。

教　　育　　長　皆さんからご意見をいただいた。さらに確認したいこと、質問をしたいこと、またはほかの委員のご意見を聞いて、それを踏まえたご意見などはあるか。

（質疑なし）

教　　育　　長　なければ、１者に絞り込んでいきたいと考えている。それでは、理由も含めて１者をご提示いただければと思う。

花　渕　委　員　Ａ者、Ｂ者、共に私はすばらしい出来上がりだと思う。どちらも、100万分の１、50万分の１の地図ということで各日本の地域ごとの表示をしてあり、だんだんと縮尺を小さくしてより詳しく示す流れは共通していると思うが、私はＡ者がいいと思う。まず、発色がすばらしく高低差が一目で分かる。それから人口の集中密集地域とそうでない地域との差も一目で分かるのは、圧倒的にＡ者の色使いがいいからだと感じたので、Ａ者をお願いしたい。

川　又　委　員　私は、Ａ者がより優れていると考える。地図という性格上、いろいろな図形や形、から情報を読み取ることに関して、非常に丁寧に説明されており、また、そのような情報が読み取りやすいように表現方法、紙面全体のつくりがなされていると考えた。

後　藤　委　員　Ａ者でお願いする。理由としては、どちらの教科書もとても興味・関心を引く構成になっており甲乙つけ難いが、Ａ者は最後のまとめの資料がとても見やすかった。情報量は非常に多いが、レイアウトの工夫や矢印の中に文字を入れるなど、情報をきちんと整理して伝えるような工夫があると思った。

山　田　委　員　私もＡ者でお願いする。先ほども意見があったが、地図の中に特産品や、名産品が

図で入っているが、非常に見やすく配置されていて分かりやすく、しかも必要な情報が全て入っていることが良いと思った。

庄　司　委　員　私もＡ者を推薦する。理由は、やはり色合いが優しいというところである。情報量的にはＡ者、Ｂ者、共に多くの情報を掲載しているのだが、文字の大きさやレイアウトの仕方で文字も大変読みやすく、地図から読み取れる情報がよいと感じた。

長谷川　委　員　私もＡ者を推薦する。Ｂ者も非常に工夫がなされていてとてもいい教科書だと思うが、地図というのは細かい情報を読み取るという資料としての役割も大きいと思う。そのときに、見やすい、読みやすいという観点で、Ａ者がいいと感じた。

教　　育　　長　皆さんのご意見を今お伺いしていると、見やすさという点において、Ａ者のほうがいいのではというお答えがあった。そうしたことを踏まえ、Ａ者が採択の候補と考えているがいかがか。

（異議なし）

教　　育　　長　それでは、「地図」については、Ａ者ということでご議論いただいた内容を採択理由として、事務局で整理の上、７月26日に最終の決定をしたいと思う。

ここで休憩を入れたいと思う。休憩については、午後３時までということにしたい。

（休憩　午後２時41分～午後３時00分）

【社会（歴史的分野）】

教　　育　　長　それでは、協議を再開する。

「社会（歴史的分野）」について協議を行う。事務局から、学習指導要領の目標等について説明をお願いする。

教育指導課長　担当指導主事より説明する。

指　導　主　事　中学校「社会（歴史的分野）」について説明する。

中学校「社会（歴史的分野）」では、社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指している。

（１）我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

（２）歴史に関わる事象の意味や意義、伝統や文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

（３）歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史に対する愛情、国民としての自覚、国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深め、国際協調の精神を養う。

以上のことを目標としている。

協議会において取りまとめた、中学校「社会（歴史的分野）」の全発行者の特長は、別添２の19から21ページにお示ししている。

主な特長について、まずＡ者は、「地域からのアプローチ」「歴史を考えよう」「歴史へのアプローチ」などをバランスよく配列することで、基礎から発展につながるように工夫されているということである。

Ｂ者は、「調べ学習のページ」で、調べ学習の例を分かりやすく明示しており、生徒が主体的に学習に取り組めるよう配慮されているということである。

Ｃ者は、日本の歴史、文化に関する内容が充実しており、我が国の歴史を重点的に学ぶことができるように工夫されているということである。

Ｄ者は、口絵で学習内容を導入し、学習活動、本文、最後に「チェック＆トライ」で学習が展開されるように工夫されているということである。

Ｅ者は、各章の導入に「歴史絵巻」のコーナーがあり、小学校の学習との接続や関連が図られるよう配慮されているということである。

Ｆ者は、「タイムトラベル」のコーナーで各時代を大観したり、各時代を比較したりして特長を考えるといった発展的な学習に活用できるよう工夫されているということである。

Ｇ者は、教科書の巻頭の「歴史ゲームで遊ぼう」で歴史上の人物をパズル形式で確認するコーナーがあり、小学校との接続に配慮されているということである。

Ｈ者は、各章のはじめに世界地図が掲載されており、各時代の世界の様子を意識しながら日本について学ぶよう工夫されているということである。

Ｉ者は、「でかけよう地域調べ」「チャレンジ歴史」により生徒の興味・関心を引き出し、主体的に学ぶことができるように工夫されているということである。

教　育　長　ただいまの事務局の説明について、何かご質問はあるか。

（質疑なし）

教　育　長　それでは、各発行者の教科書見本本にご意見をいただきたいと思う。

川　又　委　員　この一連の教科書を見るに当たり、いろいろな表紙のデザインや題目を参考にしながら考えていった。

Ａ者は、表紙が他のものとは異なり、アルファベット、片仮名等の版画を用いたデザインとなっている。その裏のページには日本にある世界遺産が紹介されており、裏表紙では世界地図、全体として文化、それから日本と世界との関係に重点を置いた教科書だと思った。この教科書では親しみやすいイラストが多数あり、そこから歴史と地理の双方が理解できるように工夫されていると思った。また、一つの特長としては、通常の本文とそれに関連する図版のほかに補助的なツールや様々なコラムが掲載されることが多いが、この教科書ではそれらのものが少ない構成になっており、この教科書を読んだ生徒自身が疑問を発し、自ら計画を立てて歴史を理解することを大切にした教科書になっていると思った。

Ｂ者は、序章で、歴史の捉え方、それから歴史とは何かということを様々な資料の見方や時代区分などを用いて説明している。また、一つの事例として、「地域の歴史を調べる」では、現在の堺市を題材として、古墳時代から江戸時代までの連続的な歴史を紹介し、歴史の考え方を説明している。また、この教科書では、現代の国家間の外交、文化的な相互のやり取りを重視したものになっていると思う。また、「外の目から見た日本」で見え方というものが重点的に記述されている。

Ｃ者について、一つの特長としては縦書きで、ほとんどの紙面や写真、図版が白黒で掲載されており、巻末でカラーの写真、図版がまとめて掲載されている。また、この教科書では、日本の原始の時代から古代、それから現代までの歴史を縦書きで、読み物として理解できるような記述になっている。記述の内容は、政治の一連の流れを中心にしたものになっている。

Ｄ者は、特長として、キャラクターとして男女２人の先生、それから、男子２人、女子２人の生徒、計６人のキャラクターが登場し、このキャラクターによって様々な問いかけや遊びが数多く記載されており、親しみやすい教科書になっている。内容の特長としては、文化財や史跡、神話などに関する特設ページを設けていて、日本の伝統や文化の理解が進むような構成になっている。全体的な表現としては、余白を十分に取り、文字の大きさや行間も余裕があるものとなっており、読みやすい紙面構成になっていると思った。

Ｅ者は、日本の国内の歴史の流れを重視して、人類の誕生から縄文、弥生、古代から現代に至るまでの日本での歴史の流れを重視し、中心に据え、それと関連付けるものとして世界の歴史が記述されている。表紙にも特長があり、レンズを通して日本の伝統的な工芸や美術、歴史的な事件を取り上げていることで、これらを重視した教科書であることを示していると思う。また、この教科書は、イラストや漫画は非常に少なくなっており、写真、絵画が重点的に用いられている。

Ｆ者は、日本の歴史の流れの記述が多くなっており、日本の歴史の流れの中で世界と関わる内容に関しては、補助的に記述されているつくりになっている。また、「考えを整理する方法～思考ツールを活用しよう～」で、Ｘチャート、座標軸、ステップチャート、ランキングなど歴史を考えるための様々な方法を提示しており、思考を支援するツールの活用を強く薦めていると思った。

Ｇ者は、各章が時代区分となっており、各章の初めで、その時代の全体像が見渡せるようなつくりになっており、全体像が提示されているところが特長かと思う。また、「身近な地域の歴史を調べよう」では琉球王国やアイヌ民族を取り上げており、他の発行者と比べて数多く取り上げられており、多文化、多様性、共生ということに大きな配慮がなされている。

Ｈ者は、近代、それから現代の歴史的な内容を豊富に取り扱っていると思った。学習の方法として、教科書を読むことだけではなく、「歴史を体験する」において、実際に火おこしをすることや、道具を使って紡織の体験をすること、祖父母にインタビューをすることなど、実験的な体験が重視されている。また、この教科書の特長としては、本文の中で強調すべきキーワードを太字、ゴシック等で強調することはないが、代わりに、どこに重点を置くかが各項目に強調されていると思った。

Ｉ者は、特長として、歴史上に活躍した女性に関して数多く紹介されている。これは、男女平等の観点から配慮されていると思った。また、地域との関連性という意味では、江戸時代の項目で琉球王国、アイヌ民族との関係性が詳しく記述されている。

後　藤　委　員　Ａ者は、章の始まりに日本史と世界史の時間軸を併記したものを配しており、その内容がとても優れていると感じた。高校の歴史総合にもつながる視点として配慮を感じる。また、日本の一地方都市から歴史を見ることで違った視点からの学びを深めることができ、他教科とのつながりも考えられていると思った。13世紀の世界や16世紀の世界など、特徴的な時代の世界全体の状況を表す図がとても見やすく、当時の世界について理解が容易であり、印象に残る工夫があると感じた。

Ｂ者は、我が国の歴史・文化に理解を深め、尊重する態度の育成に配慮されていると思う。歴史上の様々な事件や流れの中で個人の果たした役割に触れ、一人の人間がどのように関わったのかを考えさせることで、生徒たちに歴史と人間について深く考察し、学習を深められるような工夫がされていると感じた。

Ｃ者は、歴史的な深い知識を身に付けることができる教科書だと思う。専門的な内容となっており、発展的な学習が期待できる。特に、日本の歴史については、詳細な記述があり、発展的な学習を望む生徒たちの興味・関心を充足させ得る内容であると感じた。

Ｄ者は、第１章を「歴史へのとびら」とし、学習の取組方法を丁寧に説明している。歴史学習への態度を学ばせるとともに、課題を示し、まとめの活動で確かめる、深めるという主体的な学習ができるように工夫されている。探究的な学習では、フィッシュボーン、くらげチャート、くま手チャートなどの思考表現を例示することにより、主張を整理し、考察を深める態度の育成に配慮されている。

Ｅ者は、日本の美の形と歴史上の偉人の功績を紹介することにより、我が国の歴史文化を理解し、尊重する態度の育成に努めていると感じた。様々な立場からの視点による資料や写真などから、歴史上の事件に対して、現代を生きる私たちにとっても実感を伴って理解できるような配慮がある。ページ下の「探究」の問いかけは、発展的な学習や主体的な学習にも配慮されていると思った。

Ｆ者は、「タイムトラベル」という視点で生徒の興味・関心を引き出し、「アクティブ歴史ＡＬ」で発展的な学習へと導いている。バランスのよい構成で、他教科との関連も随所に見られた。「未来に向けて」では、歴史の中で繰り返される疫病の流行や、子供や女性の立場の移り変わりに触れ、防災、人権などの諸問題について、歴史的な視点から考察し、現代に続く課題として学びを深めていると思う。

Ｇ者は、学習の初めに課題を提示し、「確認！」「表現！」でまとめとして理解するように工夫されている。話合い活動や事象についての説明を求める声掛けが多く、文章問題の回答力を高める工夫があると考えた。表現力・思考力の育成に配慮されてい

る教科書だと思った。
Ｈ者は、章ごとのタイトルが生徒の興味・関心を引くように工夫されており、学習に入りやすいと思う。民衆の立場から見た資料や、一人の人間としての思いをつづった資料などから、歴史を読み解くことにより実感を伴い、歴史上の事件を捉えることができると思った。また、自分事として考える問いかけが、主体的な学びへとつなげていく工夫になっていると思う。
Ｉ者は、「学習課題」を提示し、「確認」と「表現」で知識の定着を図っている。「確認」では本文から書き抜きましょう、整理しましょうのように、得た知識を整理して定着させるような配慮があり、「表現」では様々な課題について説明させることで、思考力・表現力の育成に配慮されていると感じた。

山　田　委　員　Ａ者は、２世紀、８世紀などの世界で、世界の国々で何が起きていたのかを地図と絵で表しており、一目でイメージがしやすくなっている。「歴史へのアプローチ」というページで、各時代の様々なテーマについて深く掘り下げて説明がされている。また、「地域からのアプローチ」では、幾つかの都市を取り上げて、その歴史を説明している。
Ｂ者は、「もっと知りたいコラム」や「人物クローズアップコラム」に、その時代に関連した出来事や人物について詳細に記載がされている。また、各章の最後に「調べ学習のページ」「復習問題のページ」「時代の特徴を考えるページ」「対話とまとめ図のページ」があり、問題量が多く、知識を整理するために有効だと思う。
Ｃ者は縦書きで、読み物のような教科書のイメージである。系譜図などが詳細で文章が多く、内容が詳細である。また、ところどころにコラムや説明が入っており、単に歴史をなぞるだけではない、別の視点からの説明なども含まれている。
Ｄ者は、１単元ごとに「学習課題」が示され、学ぶ内容が明確になっている。関連する写真や地図を含めた図などが分かりやすく説明されている。また、最後の学習のふり返りでは、くらげチャートやフィッシュボーン、くま手チャートによるまとめ方が示されており、これが分かりやすく、理解を定着させるのによいと思う。
Ｅ者は、各章の最初に「歴史絵巻」があり、漫画やイラストで流れが分かるようになっている。「歴史ズームイン」に、歴史の単なる流れだけではない、そのとき生きていた人たちの意見や考え、またその時代の動きなどが紹介され、その時代を深く理解することができるようになっている。
Ｆ者は、「歴史の調べ方・まとめ方・発表のしかた」の節で仙台市が例として取り上げられ、身近な地域の歴史を知る内容になっている。また、「タイムトラベル」に各時代の生活場面を表した絵が掲載されており、イメージで変化が分かりやすくなっている。「学習を振り返ろう」には、まず年表で全体を確認し、その後グループで各章の問いを考察するという対話的な学びができるようになっている。
Ｇ者は、最初の「歴史のとらえ方・調べ方」のところで大筋の年表が示されていて、ゲームとして歴史を学ぶ方法、歴史カードやクロスワードパズルなどが示されているのが分かりやすくてよいと思う。各単元の表題が、その時代の特徴を捉えた表現、例えば「いざ鎌倉」で示されているのが興味深いと思った。
Ｈ者は、本の大きさが他者と比較して大きめで、資料やカラー写真や図解が多く見やすくなっている。また、第二次世界大戦に関しての記述が比較的多く、現代の歴史内容が多く記載されているのが特長になっていると思う。
Ｉ者は、「歴史を掘り下げる」では文化財を守る仕事などのテーマを取り上げ、分かりやすく説明がついている。まとめとふり返りは、年表の穴埋め問題と、Ｘチャートへの整理と話合いとなっていて、「チャレンジ歴史」では自分の考えをまとめ、意見交換するという形になり、対話的な学びができるようになっている。また、各時代の女性を紹介するコラムが載っているのも特長になっている。

庄　司　委　員　Ａ者は、「歴史を考えよう」で基礎的・基本的な学習の習得、「歴史へのアプローチ」は暮らしや名所の誕生など探究心を育て、「地域からのアプローチ」では各地への興味・関心を高め、多角的な学びができるような工夫が感じられた。
Ｂ者は、「チャレンジ」に確認する点が示されてあり、基礎・基本から発展的な学

習につながる工夫を感じた。「調べ学習のページ」では、例を挙げて大変分かりやすく示してあり、取り組みやすい工夫がされていると思った。

Ｃ者は、「序　国史を学ぶにあたって」で、学習の進め方、まとめ方のポイントが丁寧に示されてあり、大変取り組みやすいと感じた。教科書は小さめで、また縦書きであるところが読みやすく、巻末にカラー版で資料が集約されているスタイルで、大変見やすいと感じた。

Ｄ者は、「学習課題」「チェック＆トライ」と小単元ごとに自主的に取り組むことができ、学習内容の定着が図れるような工夫がされていると感じた。「みんなでチャレンジ」では、グループでの対話的活動ができるような流れをつくっているところもいいと感じた。

Ｅ者は、各章に、「鳥の目で見る○○」、「虫の目で見る○○」といった導入ページがあり、見通しを持って学習に取り組めるような工夫を感じた。「学習のまとめ」には、主体的に取り組めるような工夫、また、「歴史ズームイン」では、グループでの調べや話合い活動などが進められるような工夫があると感じた。

Ｆ者は、「歴史プラス＋」が多数掲載されていて、学習の理解が深められるような工夫があると感じた。また、「歴史の調べ方・まとめ方・発表のしかた」では四ツ谷用水が取り上げてあった。仙台市の身近な地域内での歴史や文化に親しみを持つきっかけになると思い、よいと感じた。

Ｇ者は、章ごとに、導入の「学習のはじめに」で学習の見通しが示され、「学習課題」「確認」「表現」と分かりやすく配列され、基礎的・基本的な学習の定着が図られるように工夫があると感じた。

Ｈ者は、各資料が大変大きなサイズで掲載され、見やすく感じた。「歴史を体験する」では調べ学習の進め方の紹介があり、他の教科との関連を持つなど、学習の幅が広がるような工夫が感じられた。

Ｉ者は、「でかけよう！地域調べ」「チャレンジ歴史」などにより生徒の興味・関心を引き出し、主体的に学習できるような工夫があると感じた。また、コラムで女性の活躍など、女性についてのテーマがところどころに記載され、男女平等などの視点についても学べるように工夫があるところもよいと感じた。

長谷川　委　員　Ａ者は、「地域からのアプローチ」「歴史へのアプローチ」「ステップアップ」などのコーナーにより、生徒が考えることができる工夫がたくさんある。文字の情報量がとても多いが、それにもかかわらず非常に読みやすく、イラストの配置も分かりやすいと思う。

Ｂ者は、最初に、歴史を学ぶこととはどのようなことなのかを説明している。言語活動に結び付けることができるような「チャレンジ」がある。

Ｃ者は、少し小さいが、その分、厚さがあり、重厚な印象を持った。日本の歴史について非常に詳しい記載があり、流れを重視していると感じた。

Ｄ者は、問いに対してどのように答えればいいのか、その具体的な方法を細かく、くらげチャートなどの具体的な技法も紹介しつつ、答え方を説明しており、生徒が主体的に学ぶことができると思った。また、「みんなでチャレンジ」では、対話的な学びができる工夫がある。ページの右側に年代が記載されており、現在どこの位置にあるのかがすぐに分かるようになっていると思う。

Ｅ者は、モノサシが特長ではないかと思う。右側に年表が記載されている教科書は多いが、Ｅ者の場合は下に年表が記載されていた。

Ｆ者は、非常に構造化されていると感じた。「見方・考え方」「次の場面を探してみよう」「世界とのつながりを考えよう」コーナーや、本文から抜き出してみようや説明しようというような問い掛けがあり、生徒が主体的に学ぶことができると思う。加えて、「ほかの人と話し合って○○を考察しよう」という問いもあり、対話的な学習も可能になっている。この教科書も右側に年表が組み込まれていて、生徒の視界に年表が入る形になっているため、現在どこの時代を勉強しているのかがすぐ分かるのではないかと思う。

Ｇ者は、考える科目であるということを示していると受け取った。学習課題につい

て、具体的な例を挙げて問い掛けがあり、生徒の思考が整理されるように工夫されている。
Ｈ者は、キーワードが強調されていないが、それに代わり興味を引くような短いタイトルが随所にある。生徒の興味・関心を引き出す工夫だと思う。
Ｉ者は、「チャレンジ歴史」があるなど、主体的に学べる工夫がある。この教科書もページの右側に年表があり、学習を進める上で、どの時代にあるのかがすぐ分かるように工夫されている。

花　渕　委　員　Ａ者は、「歴史へのアプローチ」で、グローバルな視点で見たテーマや、ポイントを絞ったテーマなど、歴史的な事象を多面的・多角的に考察できるように工夫されている。
Ｂ者は、「時代の特徴を考えるページ」で、その時代を体感して、思考力・判断力・表現力が育成されるような工夫がされている。
Ｃ者は、単元の小項目において、導入の「課題」、まとめの「考えよう」という構成になっており、自ら学ぶように工夫がされている。
Ｄ者は、「スキル・アップ」「チェック＆トライ」のコーナーで基礎的・基本的な知識や技能を活用した説明や要約の活動を設定して、その活動を通して思考力を高める工夫がされている。
Ｅ者は、学びのナビゲーションによる問題解決型の学習を実現する構成となっており、基礎・基本の定着や、発展的な学習が展開できるよう配慮されている。
Ｆ者は、各章、各節、本時の３つの問いがあり、それぞれ歴史的分野の目標と内容を踏まえており、各時代をつかみやすいように構成されていると思った。
Ｇ者は、１時間ごとに「確認！」と「表現！」の問いが設定されており、基礎的・基本的な内容の定着を図り、発展的な学習が展開できるように配列されている。
Ｈ者は、「歴史を体験する」が全７テーマあり、火おこしや糸づくりなどの体験や討論などが設定されており、学習意欲を高める工夫がされていると感じた。
Ｉ者は、「確認」「表現」というコーナーを設け、基礎的・基本的な知識の確実な定着と、習得した知識や技能を活用して、文章化・言語化できるような工夫がされている。

教　育　長　それでは、歴史は９者なので、３者に絞ってまいりたいと思う。それぞれの委員から、３者挙げていただきたいと思う。

川　又　委　員　Ｄ者、Ｆ者、Ｇ者。
後　藤　委　員　Ａ者、Ｄ者、Ｆ者。
山　田　委　員　Ｅ者、Ｆ者、Ｇ者。
庄　司　委　員　Ｄ者、Ｆ者、Ｇ者。
長谷川　委　員　Ｄ者、Ｆ者、Ｇ者。
花　渕　委　員　Ａ者、Ｄ者、Ｆ者。

教　育　長　Ａ者が２票、Ｂ者がゼロ、Ｃ者がゼロ、Ｄ者が５、Ｅ者が１、Ｆ者が６、Ｇ者が４、Ｈ者がゼロ、Ｉ者がゼロということで、Ｆ者、Ｄ者、それからＧ者ということで議論を進めてまいりたいと思うがよろしいか。

（異議なし）

教　育　長　それでは、Ｆ者、Ｄ者、Ｇ者ということで進めてまいりたい。
改めて、この３者についてご意見を頂戴したいと思うが、まずはこの３者について確認したいこと、それからご質問、ご意見をいただきたいと思うがどうか。

（質疑なし）

教　育　長　どの発行者の教科書がよいかご意見を、理由をいただきながら、１者に絞り込んでいきたいと思う。

川　又　委　員　私は、Ｆ者を推薦したいと思う。基本的に日本の歴史というものを重視しながら、日本の歴史に関わる世界の歴史についても、関係性が非常に分かりやすく記述されていると思った。また、「考えを整理する方法～思考ツールを活用しよう～」で、歴史を、Ｘチャートや座標軸、ステップチャート、ランキングなどいろいろなツールで、自分で思考を組み立てることを推奨しているため、その点で非常に生徒に分かりやす

いと思った。

後　藤　委　員　私も、この３者の中であれば、Ｆ者を推薦する。理由は、教科書としてとてもバランスがいいということに加えて、随所にある「未来に向けて」というコラムである。これが歴史学習の中でとても重要な視点に立っていると思い、繰り返されてきた疫病の流行や子供や女性の立場の移り変わりなどに触れて、歴史の中で、防災や人権などの問題、現在につながる課題をどのように解決してきたか、どのようにつなげていくかという視点を度々繰り返して教えているので、とてもよいと思った。

山　田　委　員　私もＦ者がいいと思う。内容は先ほど申し上げたとおりだが、「タイムトラベル」にその時代の生活場面を表した図が見開きで掲載されていてイメージをつかみやすい。また、「学習を振り返ろう」がグループで問いを考察する方法が取られていること、「歴史の調べ方・まとめ方・発表のしかた」に仙台市が取り上げられているなどの点がいいと思う。

庄　司　委　員　私もＦ者を推したいと思う。先ほども申し上げたが、コラムが多数掲載されていて、学習の理解がしっかりと深められるような工夫が見られると思う。あとは、先ほども言ったが、やはり四ツ谷用水が取り上げられていることも、仙台市にあるものなので、すごく興味深いと感じた。

長谷川　委　員　私もＦ者である。歴史的分野を学ぶ意義が最初に書かれているが、単に歴史の事実を知ればいいということでもなく、社会の主権者として、世界の市民の一人として、なぜそのようなことが起こったのかもきちんと理解し、その上で未来のために歴史を学ぶという、考え方を示していることがよいと思う。そして、情報量も十分にあるので、考えるために必要な様々な資料、事実等々が多く掲載されている上に、単にいろいろな資料があるというだけではなく、それをどのように活用すればいいか、考えを整理する方法である、思考ツールが紹介されている。さらには、対話的学習も促進できるような工夫もある。以上から、非常にバランスよくつくられていると思うため、Ｆ者がいいと思う。

花　渕　委　員　私もＦ者がいいと思う。各見開き１ページが１単位時間の扱いになっていると思うが、それぞれの学習問題の主たる資料が１つ入っており、それを補完するサブ資料が反対のページに複数入っているつくりになっており、子供たちがこの時間で何を学習するのかというのが非常に明確になっている。この主資料と副資料のバランスもよく、子供たちが学習する上ですばらしいと思った。また、導入で仙台市の四ツ谷用水など子供たちが知っているような場面が出てくるというところもあり、歴史の学習にいざなうという意味でも、Ｆ者がいいのではないかと思った。

教　育　長　これまでの議論を振り返ると、まずは、歴史を見たときの思考をどのように考えればいいのかという思考ツールが明示されていることや、例えば歴史を学ぶ意義、そこからどのように歴史を学び未来に生かしていくのかといったところ、それから仙台市の事例が取り上げられているというご意見があり、総合的に見るとＦ者ということになろうかと思う。Ｆ者が採択の候補ということでよろしいか。

（異議なし）

教　育　長　それでは、「社会（歴史的分野）」については、Ｆ者ということでご議論いただいた内容を採択理由として、事務局で整理の上、７月26日に最終的に決定したいと思う。

【社会（公民的分野）】

教　育　長　「社会（公民的分野）」について協議を行いたいと思う。事務局から、学習指導要領の目標等について説明をお願いする。

教育指導課長　担当指導主事より説明する。

指　導　主　事　中学校「社会（公民的分野）」では、現代社会の見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指している。

（１）個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務との関係を広い視野から正しく認識し、民主主義、民主政治の意義、国民の生活の向上と経済活動

との関わり、現代の社会生活及び国際関係などについて、個人と社会との関わりを中心に理解を深めるとともに、諸資料から現代の社会的事象に関する情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

（２）社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察したり、現代社会に見られる課題の解決について公正に判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

（３）現代の社会的事象について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

以上のことを目標としている。

協議会において取りまとめた、中学校「社会（公民的分野）」の全発行者の特長は、別添２の23から24ページにお示ししている。

主な特長について、まずＡ者は、本文ページには、学習課題と、それに関連した「見方・考え方」が明示されており、学習内容が定着するための手助けになるように工夫されているということである。

Ｂ者は、巻頭の「公民の学習を始めるにあたって」や本文ページには、学習内容とＳＤＧｓの関連が示されており、現代社会の在り方を考える視点が持てるように工夫されているということである。

Ｃ者は、「やってみよう」では、本文の学習内容と関連して取り組む課題があり、学習内容を基にした言語活動が展開できるよう工夫されているということである。

Ｄ者は、「序章　現代日本の自画像」や「もっと知りたい」のコラムで、日本の伝統や文化について理解が深まるように工夫されているということである。

Ｅ者は、単元の導入の探究課題や、単元内に「みんなでチャレンジ」が設けられ、単元を通して生徒が主体的・対話的で深い学びができるよう工夫されているということである。

Ｆ者は、「アクティブ公民」「公民プラス＋」「アクティブ公民ＡＬ」など学習内容を深めるコーナーによって、基礎的・基本的な内容の習得から発展的学習につながるように工夫されているということである。

教　育　長　ただいまの事務局の説明について、何かご質問はあるか。

（質疑なし）

教　育　長　それでは、各発行者の教科書見本本にご意見をいただきたいと思う。

後藤委員　Ａ者は、見開きページを使い、「学習課題」と「確認」で知識を整理し、章の「まとめとふり返り」で発展的な知識の習得や言語活動の充実に向けて工夫がされている。生徒にとって身近な問題から課題を提示しており、興味・関心を引く工夫が見られた。

Ｂ者は、ＳＤＧｓとの関連が示され、現代社会の問題解決への視点が整理されている。学習の定着を図る工夫が見られた。また「学習のまとめと表現」で思考力・判断力・表現力を育む配慮があり、主体的な学習と言語活動の充実が期待できると思った。

Ｃ者は、公民の様々な課題について、身近な視点から問いを投げ掛けたり、身の回りのことに置き換えて考えさせたりすることで、主体的・対話的で深い学びを実践するための工夫がなされていると思った。

Ｄ者は、我が国の歴史や今後の課題を明確にし、世界の中の日本、また日本人としてどう生きるべきかを学ばせようという配慮が見られた。

Ｅ者は、「18歳へのステップ」の内容がとてもまとめられておりよかった。ほかの教科書にも18歳についての記述はあるが、特にＥ者では必要な知識がとても分かりやすく記されていて、学ばせたい内容だと思った。また、二次元コードの配置も適切で、設問の答えを紙面に書かずにデジタルで答えを明示する仕掛けがあり、とても工夫されていると思った。

Ｆ者は、コラムが豊富で、身の回りの社会に目を向けさせる工夫や、生徒に興味・

関心を引き起こさせて学習意欲を高める工夫だと思った。情報量が多く、発展的な学習が期待できる教科書だと思った。写真などの資料も豊富である。

山　田　委　員　Ａ者は、各章の「まとめとふり返り」で語句の意味を確認し、章の問いを考え、表にまとめ、グループでディスカッションをするという流れになっている。公民は難しい語句が多いので、語句を確認する方法が入っていることは重要だと思う。また、バイオマスや地熱、シェールガスなどの最近のエネルギーの長所・短所の比較表などがあり、分かりやすいと思った。

Ｂ者は、最初に、「公民にアプローチ」で情報を集め、記録し、整理し、発表する方法が説明されていて、整理の方法として、くらげチャートやピラミッドチャートなど思考ツールが紹介されているのがよいと思った。また、単元ごとに「学習課題」が示され、学ぶ内容が明確になっている。関連する写真や地図を含めた図等で分かりやすく説明されているのがよいと思った。

Ｃ者は、章の初めが「○○の入り口」で始まり、最後は「○○のこれから」となっており、学んだ内容を参考にグループディスカッションができるような設定になっている。「学習を深めよう」が40件ほどあり、様々な切り口のコラムが紹介され、学習内容をさらに深く、より詳しく学ぶことができるようになっている。

Ｄ者は、序章として「現代日本の自画像」があり、日本が置かれている現状の説明がされ、現状認識をした上で学習に入る形は重要だと思った。

Ｅ者は、巻末のまとめに、「確かめよう」で穴埋め、「ふり返ろう」で自分の考えを記述し、「深めよう」でディスカッションをするという流れになっていて、それが対話的な学習をする上でも大変重要だと思った。また、分かりにくい言葉が多いため「ワードチェック」から入っているというのが重要だと思った。

Ｆ者は、学習の前に見開き２ページにわたり、まちのイラストが掲載されていて、その中で、その章で学ぶべきポイントが示されていることが特長だと思う。それから、特設ページ「未来に向けて」に、環境や防災、人権、伝統などテーマから様々な取組を紹介していて、ＳＤＧｓに関連するナンバーがそれぞれのページに示されているのがよいと思った。

庄　司　委　員　Ａ者は、「学習課題」「見方・考え方」が明確に示されており、「アクティビティ」では話し合うことで互いに学びや工夫が感じられた。

Ｂ者は、「学習課題」「確認！」「表現！」が示されていることで、自分の考えをまとめたり、友達の意見を聞いたり、話合い活動を行うことで学習が深まる工夫が感じられた。また、関連やＳＤＧｓの表示では、これまでに学習したほかの教科との関連などが示されてあり、学習の視野が広がり、取り組めるような工夫があると感じた。

Ｃ者は、課題、見方・考え方が明確に示され、大変取り組みやすいと感じた。関連する情報を照会する「学習を深めよう」が多く掲載され、こちらも発展的な学習に取り組めるような工夫があると思った。

Ｄ者は、「アクティブに深めよう」で、話合い活動などにつなげられる工夫があると思った。「もっと知りたい」では、学んだ内容に合ったコラムが多数掲載され、発展的な学習につながると感じた。

Ｅ者は、「学習課題」で課題が明確に示されていて、学習の見通しを立てて自主的に取り組むことができると思った。「チェック＆トライ」「スキル・アップ」によって、基礎的学びから発展的な学びにつなげる工夫があると思った。「もっと知りたい！」では、学んだ章に関する内容のコラムが多数掲載されていて、さらに学びを深めたり広げたりすることにつながる点がよいと思った。

Ｆ者は、「学習の前に」で、見開き２ページに描かれたイラストから学習内容が考察でき、大変興味・関心が湧くような工夫があると感じた。また、小学校、地理的分野、歴史的分野、ほかの教科との関連などが示されていて、これまでに学習した内容などを踏まえながら公民に取り組めるような工夫があることがいいと感じた。

長谷川　委　員　公民については、これも知るだけではなく、いかに自分自身の問題なのか、自分たちの生活や権利や自由と関わってくるのかということに気付いたり、考えたりできるかが重要だと思っている。その上で、Ａ者については、私たちの課題として、身近な

問題も含め、現代社会の様々な問題を考えられるように工夫されていると感じた。
Ｂ者については、「公民の技」などで言語活動及び対話活動ができるように工夫されていると感じた。
Ｃ者については、漫画のキャラクターが問い掛け、興味を持たせるような工夫があると思った。
Ｄ者については、「もっと知りたい」で生徒が主体的に学べるような工夫があると感じた。
Ｅ者については、「みんなでチャレンジ」などで主体的・対話的に学べる工夫がされていると思う。自由や権利など、政治的な概念は、目に見えない分、なかなか理解するのが難しいが、ただ文章を読むだけではなく、具体的に考えていく工夫がされていると思う。
Ｆ者については、「アクティブ公民」「アクティブ公民ＡＬ」などによって、主体的・対話的に学ぶ工夫がされていると思う。

花　渕　委　員　Ａ者は、皆さん述べているとおり、「アクティビティ」が設けられており、習得した知識を使い、見方・考え方を働かせながら、主体的で対話的で深い学びとなるように工夫されていると思った。
Ｂ者は、文化の継承や人権、まちづくり、ＳＤＧｓなどの特設ページを設けて社会的事象への関心を高め、具体的に捉えることができるように工夫されていると思った。
Ｃ者は、少子高齢化、多文化共生、グローバル化、情報化、伝統文化の継承等の課題について、自分たちの生活目線で考え、判断し、深められるような内容構成になっていると思った。
Ｄ者は、基礎的事項を厳選しており、教材を体系化、再構成するとともに、単元に準じた「もっと知りたい」のコーナーを設け、発展的な学習に取り組めるような工夫がされていると思った。
Ｅ者は、防災・安全、人権・平和、伝統・文化など５つのテーマを中心に、現代社会の諸問題に主体的に取り組む態度を育成する内容となっていると思った。
Ｆ者は、各章の学習の前で見通しを持たせ、毎時間の学習課題については、「確認しよう」「説明しよう」で思考力・判断力等の定着が図られるように工夫されていると思った。

川　又　委　員　Ａ者は、中学校、高校で学ぶような公民関連の科目、それから歴史、地理との関連性がよく記述されていると思う。第１編第１章の「私たちが生きる現代社会」の中で、公民で考えるべきことに関しての問題意識を醸成する意味で、ＩＣＴや、ＡＩなどの現代的な課題について学ぶべきことをまとめている。また、各章の初めの「学習のはじめに」で、公民に関わる様々なエピソードや題材を提示している。例えば、文化祭の計画での話合いや、ハンバーガーショップでハンバーガーを購入するとそれが世界とどのように結び付くのか、チョコレートを購入すると、それが他の地域、諸外国に対してどのように関係するのかが紹介されており、身近なところから公民の学習ができるようになっていると思う。
Ｂ者は、ほぼ全てのページに、「確認！」「表現！」という小さなコラムがあり、重要なキーワードや概念を設問の形式で示している。また、短い書き込み用の空白があり、生徒が自分の手で書き込み、公民の中での問題意識が高められるようになっていると思う。付録では、現在の日本国憲法から始まり、公民に関連する多数の法律等が記載されている。男女共同参画やアイヌ民族、ヘイトスピーチ、情報公開に関連する法律など現代的な課題の法律が付録として記載されていることが特長かと思う。
Ｃ者は、表紙の写真に、公民における問題意識が表現されていると思った。現代の世界的な課題や社会における矛盾が表紙の写真で取り上げられている。第１章第１節のところでは、社会の様々な課題に目を開かせるような説明が投げかけられており、特に現代の日本における政治的な課題や国際関係上の課題に関する記述が多いと思った。
Ｄ者は、表紙と裏表紙の写真で、現代日本の政治、経済、国際関係などの様々な課題に関して、写真を用いて問題意識を表していると思った。また、付録で、公民に関

わる日本国憲法と様々な法律、国歌、国旗、個人情報、ＰＫＯなど、現代において、議論があった様々な事項に関しての法律の概略が掲載されている。

Ｅ者は、身近な生活の視点から公民の内容を理解させようとする趣旨の構成になっている。また、「東日本大震災からの復興と防災―仙台市を例に考える」については、仙台市の事例が重点的に取り上げられているところがよいと思う。このＥ者の教科書においても、先生２人、生徒４人のキャラクターが登場しており、様々な会話、疑問、問い掛けがされ、非常に分かりやすい構成になっていると思う。ゆったりとした紙面構成が取られており、読みやすい教科書だと思う。

Ｆ者は、小学校や地理的分野、歴史的分野、そのほかの教科との関連事項が整理されている。様々な内容でマイクのマークで示されたコラムがあり、いろいろな方々のインタビュー記事がまとめられている。世界や日本の中でいろいろな意見が紹介されていることがよいと思う。また、ロールプレイングやディスカッション、意見交換が重視されており、対話的な学習を重視している。このＦ者の紙面についても、大きめの文字、広めの行間で構成されており、読みやすい教科書になっていると思った。

教　　育　　長　それでは、６者あるので、これを３者に絞った上で議論を進めてまいりたいと思う。各委員から発行者を３者挙げていただきたいと思う。

後　藤　委　員　Ａ者、Ｂ者、Ｅ者。

山　田　委　員　Ｂ者、Ｅ者、Ｆ者。

庄　司　委　員　Ｂ者、Ｅ者、Ｆ者。

長谷川　委　員　Ｂ者、Ｅ者、Ｆ者。

花　渕　委　員　Ｂ者、Ｅ者、Ｆ者。

川　又　委　員　Ｂ者、Ｅ者、Ｆ者。

教　　育　　長　確認するが、Ａ者については１名、Ｂ者については６名、Ｃ者がゼロ、Ｄ者がゼロ、Ｅ者が６名、Ｆ者が５名ということでよろしいか。

（異議なし）

教　　育　　長　それでは、Ｂ者、Ｅ者、Ｆ者、この３者について、次の段階として議論を進めてまいりたいと思うがよろしいか。

（異議なし）

教　　育　　長　それでは、議論を進めてまいりたいと思うが、まず、この３者について、事務局に確認したいことやご質問、それからご意見があればいただきたいと思うがいかがか。

（質疑なし）

教　　育　　長　では、議論を進めていきたいと思う。各委員から１者に絞り込んでいただいた上で、意見を伺えればと思う。

後　藤　委　員　ほかの教科書もそうだったが、どれもとてもよくつくられていて、全ての教科書を子供たちに学ばせたいと思いながら読んでいた。この３者の中で選ぶのであれば、私はＥ者を推薦する。理由としては、どの教科書にも見られるが、特に主体的・対話的な学びができるように話合い活動を促すような工夫が随所にある。また、「18歳へのステップ」の内容が、本当に必要な知識が明瞭に簡潔にまとめられていることから、子供たちにしっかり学んでほしいと思いながら読んでいた。Ｅ者を推薦する。

山　田　委　員　私は、Ｂ者とＦ者で悩み、Ｆ者を推したいと思う。内容的には、先ほどお話しした内容だが、それ以外に「アクティブ公民」があり、例えば「パン屋さんを起業してみましょう」のような具体的なお金の流れについて考えるところが、入っているのがいいと思い、Ｆ者を推したいと思う。

庄　司　委　員　私は、Ｅ者を推薦したいと思う。先ほども申し上げたが、「チェック＆トライ」や「スキル・アップ」で、基礎的・基本的なところから発展的な学びにつなげることで、生徒たちが取り組みやすい工夫が感じられたためである。

長谷川　委　員　私は、Ｅ者を推薦したいと思う。Ｅ者とＦ者で最後まで迷ったが、どちらもよい教科書だと思っている。この２者を比べたときに、２点ほど違いを感じた。一つは、章の最後のまとめがＥ者のほうが詳しく、かつ、ページ数としても長く、思考ツールが具体的に示されているため考え方を学ぶことができると思ったからである。もう一点は、Ｅ者のほうが、より多様性に配慮があると感じたからである。

花　渕　委　員　冒頭に事務局から説明があったが、公民的分野は、ほかの歴史的分野や地理的分野より主体的・対話的で深い学びを求められる教科だと思う。そういった視点で見たときに、私はＥ者の各章の最後に４ページで構成される「確かめよう」「ふり返ろう」「深めよう」、これこそがまさに、学習指導要領でいうところの主体的・対話的で深い学びが、Ｅ者の教科書で実現されるのではないかと思った。Ｅ者を推薦したいと思う。

川　又　委　員　私は、Ｅ者を推薦したい。自分自身の身近な生活の視点から、公民の様々な話題、問題意識に誘導していく構成になっているので、その点がとても重要かと思った。また、対話的な学習という意味でいうと、先生２人、生徒４人のキャラクターが出ているということ、様々なレポートや調査に関しても対話的な視点が多く取り上げられている点が重要かと思った。

教　　育　　長　ご意見をまとめると、公民の分野については、主体的に、自分に引きつけて考えられるかということ、クラスメイトと対話をしていけるかどうかということが重視されるということを考え、Ｅ者が優位なのではないかということをおっしゃる委員の方が多いと考えている。これについて、Ｅ者を候補とすることでよいか。

（異議なし）

教　　育　　長　それでは、ご議論いただいた内容を採択理由として、「社会（公民的分野）」についてはＥ者ということで、事務局で整理の上、７月26日に最終的に決定したいと思う。

以上で、本日の協議を終了したいと思う。次回は７月12日になるが、中学校教科書の「国語」「書写」「英語」の採択についての協議を行う。

以上をもって、本日の臨時教育委員会を閉会する。

４　閉　　会